

「石に刻んだ赤心」 竹田公演

みどころ

大山大輔の存在感

劇団四季の浅利慶太に指名されてオペラ座の怪人主役に呼ばれましたし、指揮者の佐渡裕氏に指名されてオペレッタ「メリーウィドウ」の主演に大抜擢されたのはまだ 20 代の頃、相手役は故佐藤しのぶさんでした。彼のほんものの鹿児島弁での熱演を聞いて、東京の敬天愛人の会の会長は、NHK 大河ドラマ西郷役の鈴木亮平が小さく見えると語っていました。彼の舞台が無料で見れるというのは、関東のオペラ界の人達にとっては「信じられない！」話です。今回は大山の後輩で鹿児島出身の 20 歳川内悠(東京芸大声楽科 2 年)が座組に入りました。第二の大山に育つかどうか、楽しみな美少年です。

方言の魅力

鹿児島弁、熊本弁、宮城弁をこれだけ忠実に再現している芝居やドラマは近年まれです。大日の芝居は「言葉の博物館」だとよく言われます。明治時代の会話はこのようだったろうかと、耳で楽しんでいただきたい。

「気」の芝居

現代の日本の演劇やミュージカルは西洋化されたものがほとんどです。私の芝居は、能や新歌舞伎、新国劇などの流れをくんだ純和風の世界です。舞台装置や照明に頼らず、役者の力量だけで勝負する「気」の芝居です。

荒城の月変奏曲

宮城県は日本のクラシックギター発祥の地です。大正時代から昭和まで、日本のギター界を支えたのは石巻や仙台のギターリストたちでした。若生智彦先生は宮城の伝統を受け継ぐ最後のギターリストであり、彼の弾く「荒城の月変奏曲」は、耳と指で引き継がれた宮城のギターの秘曲です。台湾ではギター一本この曲で 2500 人の観衆をうならせました。竹田ではおそらく初演かと。瀧廉太郎の没 120 年にふさわしい曲です。ご期待ください。

石に刻んだ赤心も明治 12 年の話で、瀧廉太郎が誕生した年の史実です。

ふるさとの物語制作委員会代表 大日琳太郎

賛助出演

公演当日は、竹田市民有志による合唱シーンもあります。ご期待ください！

竹田公演準備会事務局

竹田市人権・部落差別解消推進課

竹田市総務課

竹田市教育員会生涯学習課